令和６年度　社会科　授業改善推進プラン

大田区立道塚小学校

1　昨年度の授業改善推進プランの検証

（1）　成果

身近なニュースを取り上げたり、施設見学に行ったりすることで社会科に興味をもつ児童が増えた。体験学習は、児童の記憶に残りやすく、知識としても身につく傾向があった。授業の中で資料の読み取り時間を作り、分かったことを書くことに慣れてきている児童もいる。

（2）　課題

資料やグラフから事実を読み取ることはおおむねできるが、そこから根拠をもって意味を考えることに、課題がある児童が多い。事象を比べたり、関連付けたりして考えることは、読み取る内容が多くなると、そこから的確に情報を見付けることは難しい。そのため、文書資料や表・グラフを読み取ることに抵抗がないように指導する必要がある。

2　大田区学習効果測定の結果分析

（1）　達成率（経年比較）

	令和６年度結果 （目標値に対する増減） ※▲はーを表す	令和５年度結果	令和４年度結果
第４学年	平均正答率　▲６．３Ｐ 中央値　▲４．４Ｐ 領域別では、「生産や販売」の平均正答率が目標値に近い。 観点別では知識・技能、解答形式では短答形式の正答率が特に低い。		
第５学年	平均正答率　▲７．７Ｐ 中央値　▲５．０Ｐ 領域別では、「特色ある地域の様子」の平均正答率が目標値に近い。 観点別では知識・技能、解答形式では選択、記述形式の正答率が特に低い。	・「市の様子の移り変わり」では、目標値を大きく下回った。文章の内容や複数の資料のどこを見ると正解が導き出されるかを読み取ることに課題がある。 ・基礎より活用が目標値を上回った。基礎的な知識を身に付けさせる必要がある。 （第４学年時）	

第６学年	平均正答率　▲７．１Ｐ 中央値　　　▲３．８Ｐ 領域別では、「国土の自然環境と国民生活」の正答率が目標値に近い。 観点別では知識・技能、解答形式では短答、記述形式の正答率が特に低い。	・「特色ある地域の様子」では、目標値を上回った。選択問題は正答率が高く、資料を読み取れている。 ・記述式の問題の正答率が目標値を大きく下回っている。資料等を分析し、自分なりに思考・判断し、説明する力を育む必要がある。 （第５学年時）	・「市の様子」「暮らしの移り変わり」では、目標値を大きく下回った。地図や資料を読み取って考察する力を身に付けさせる必要がある。 ・記述式の問題の未回答が多い。資料等を分析し、説明する力を育む必要がある。 （第４学年時）

（２）　分析（観点別）

①　中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
長い文書、地図やグラフなどの資料を正確に読み取る力を身に付けさせる必要がある。	文書や表・グラフの資料を読み取って、考えたことを表現する時間を毎時間作り、力を身に付けさせる必要がある。	社会的事象に興味がもてるように、地域に関わりがあり、児童に身近な資料を提示することが大切である。

②　高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調査活動、地図帳や各種の具体的資料を読み取る力、必要な情報を調べてまとめる力を身に付けさせる必要がある。	資料から集めた情報を比較・関連付けながら自分なりに思考・判断し、言葉にして表現することを繰り返す必要がある。	社会的事象について、多面的・多角的な考察ができるように、必要な資料を提示したり、対話的に解決する場を設定したりする必要がある。

３　授業改善のポイント（観点別）

（１）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な地域での調査活動等を通して、地域の様子の移り変わりについて理解させる。また、地図、表、グラフなどの具体的な資料を正確に読み取る技能を身に付けさせる。	授業のめあて達成のために、教科書や副読本の文書のどこから情報を読み取ればよいかを理解し、話し合う時間を作ること、そこから分かることを考える時間を作ることなど表現する活動を充実させる。	学習問題の設定場面で、驚きのある資料を提示し、興味をもたせる中で、予想させ、粘り強く調べ、まとめるという問題解決型の学習方法をすすめるようにする。

（２）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教科書の「ことば」の説明を必ず確認する。また、グラフや資料の読み取りの視点を具体的に指導し、地図帳・資料集をもとに調べる活動を行う。習得した知識を活用し、自分の考えを述べたり、まとめたりする場を設定する。	資料を関連付けて読み取り、資料の比較などを毎時間授業に取り入れ、考えをもたせていくことが必要である。主張（言いたいこと）、事実(根拠)、理由付け（主張と事実の結び付け）を意識して表現する方法を提示する。	授業の導入で、児童が「なぜ？」「どうして？」と思うような資料等を提示し、児童の興味・関心を高める。また、追求すべき問題を明確にし、学習の見通しをもたせるなど、問題解決型の学習方法を進める。